

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	3891400016		
法人名	原井川建設有限会社		
事業所名	グループホーム あいの里		
所在地	愛媛県西予市野村町阿下6号588番地 (電話) 0894-72-3737		
管理者	眞田 ハル子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 21 年 1 月 20 日	評価確定日	平成 21 年 2 月 13 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 12 月 29 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	14.8 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 29 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	9 名	要介護 2	5 名
要介護 3	2 名	要介護 4	1 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 84 歳	最低 67 歳	最高 100 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは畑に囲まれた静かな場所に建ち、玄関は家族や近隣の方が気軽に訪ねて来られるよう家庭的な雰囲気づくりがされている。居間は明るく季節を感じる飾り付けがされており、利用者はそれぞれ好みの場所で思い思いに過ごしている。管理者及び職員は理念に基づき、利用者の担当を決めて、利用者の日々の暮らしを支えており、利用者が穏やかな表情で互いに協力しあっていることからそのことがうかがえる。また、自治会に入って地域の行事に積極的に参加し、清掃など地域住民としての役割も担っている。中学生の体験学習やボランティアの受け入れも行っており、地域との交流も活発に行っている。昨年12月にホーム横に完成した交流館を拠点として、さらに地域との交流を深めていく予定である。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

利用者一人ひとりを把握するためにセンター方式を採用したり、職員を担当制にしてより利用者把握できるよう取り組んでいる。食事については知人の管理栄養士に献立を見せて栄養バランスなどをチェックしてもらった。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価については、前回と同様に職員全員で取り組んでいる。職員の意見を管理者がまとめている。自己評価をすることで日頃のケアの振り返りとなり、サービスの向上に努めている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

2か月に1回定期的に開いている。ホームの行事や利用者の状況、職員の研修報告、意見交換などを行っている。会議には地域の方の参加も多いため、地域の情報も得ることができ、ホームの質の向上に活かしている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

意見箱を設置しているが、今のところ意見等はない。利用料の支払いのため月1回は必ず家族の来訪があるので、その時に話を聞くよう心がけている。また重要事項説明書にホーム及び外部の苦情相談窓口を明記しており、家族にも説明している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

ホームは自治会に加入し、地域の一員としての役割を担っている。近隣の方とは散歩中や買い物時に挨拶や会話を交わし、顔馴染みになっている。地域の行事には積極的に参加し、中学生の体験学習やボランティアの受け入れも行っている。昨年の12月には、地域との交流の拠点となる予定の交流館がホーム横に完成した。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)
氏名 真田 ハル子

評価完了日 平成 20 年 12 月 24 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の理念をつくって日々そのことを意識しながらケアに当たっている。 (外部評価) 理念は開設当時からのものであるが、地域を意識したホーム独自の理念となっている。管理者は、現在の理念についてホームのさらなる向上のために職員と話し合いを持ちたいと思っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念がいつでも誰でもすぐ目に付くように、各ユニットに数カ所貼っている。日頃から機会あるごとに理念を理解し確認している。 (外部評価) 管理者及び職員は「私たちは家族です。」と始まる理念を共有し、利用者の日々の暮らしを支えていることが、利用者の穏やかな表情からもうかがえる。理念はホーム内の随所に掲示しており、いつでも確認できるようになっている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 入居時には必ず利用者、家族に理念について十分話している。日頃から利用者さんとの会話の中でも私達は家族ですよ。仲良くしましょうねと分かり易く話している。ホーム便り等でも地域の方の目にもふれるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 十分努めている。年末に建物の裏に交流館が落成したので今後更に地域の方々との交流が期待できる。地域の人達も非常に好意的で期待して頂いている。		交流館ができたことで更に地域の方との交流ができると期待している。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の自治会に入会し、共同作業、常会、地域の催し物にも声がかかり参加している。運営者が非常に協力的なため、地域からも歓迎されている。回覧板がまわり、次へ届けるのも利用者の仕事としている。 (外部評価) ホームは自治会に加入し、地域の一員としての役割を担っている。近隣の方とは散歩中や買い物時に挨拶や会話を交わし、顔馴染みになっている。地域の行事には積極的に参加し、中学生の体験学習やボランティアの受け入れも行っている。昨年12月にはホーム横に交流館が完成し、さらに交流を深めていく予定である。	※	交流館の落成式には地元の方が大勢出席して頂き賑やかに祝って頂いた。 交流館を活用してさらに地域との交流を深めていくことを期待したい。また、ホームの機能を地域に還元していく取り組みも期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者の方がボランティアとして毎月来て頂き、野菜畑の世話や利用者との話し相手をして頂きます。私達はホームの行事にお誘いしています。交流館が出来たことで専門的な事で何かお役に立つことができればと考えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価の意義は十分理解をしている。改善項目など職員会で話し合いながら取り組んでいる。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を理解しており、自己評価も全員で取り組み、出された意見を管理者がまとめている。自己評価をすることにより日々のケアを振り返り、サービスの向上につなげている。外部評価は職員全員に報告して話し合い、改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホーム内のことはすべて報告をして理解をして頂き、適切なアドバイスを受けサービスの向上に活かしている。委員さん達は自分の事のように熱心に討議して頂いている。委員さんの提案による行事をすることも多い。 (外部評価) 2か月に1回定期的に開催している。ホームの行事や利用者の状況、職員の研修報告、意見交換などを行っている。会議には地域の方の参加も多いため、地域の情報が得ながらホームの質の向上に活かしている。		地域の農業祭り、バラ大師の縁日など
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは気軽に何でも相談ができ、ホームの大きな行事には参加して頂いている。また介護保健の認定調査等に来られた時でも利用者さんとも気軽に話し、お茶など一緒にして頂いている。 (外部評価) 市との連携は取れており、わからないことはその都度気軽に相談している。また、ホームの行事に参加してもらうこともある。介護相談員を受け入れ、利用者のお話を聞いてもらっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護については機会あるごとに研修会にも参加している。まだそれらの事業を利用する機会は生じていないが、必要時には包括支援センターとも連携しながら進めていきたい。		一般の職員にも権利擁護の研修にも参加できる機会をつくる。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については日頃から十分理解している。身体的な虐待は絶対していないが言葉による虐待にも十分注意するように指導している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約の際十分な時間をとって説明をしているので理解して頂いているものと思っている。また何でも気になることはいつでも遠慮せずに言って下さい。私達は家族ですからと伝えています。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) やれていると思っている。利用者の表情や仕草、態度から何かを訴えたいことが伺えた時は個別に話を聴く場をつくり対応している。	※	介護相談員さんが個別に利用者さんと話して頂くよいのでは思うので次回にはそのことを相談員さんに話して見たい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時、利用料納入時、お便りで報告し、個人の病状等については電話で直接報告している。 (外部評価) 請求書と一緒に、管理者が利用者の日頃の様子を書いて送っている。利用者の担当を決めたので、次回からは担当職員も一筆書く予定である。利用料はホームに持って来てもらうため、その際にも話している。緊急時や状態に変化があればその都度電話連絡している。金銭管理についても預かり時は預り証を書いて家族にも渡している。	※	担当者が家族にお便りを書くようにしたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時には勿論、面会時等にも意見や苦情処理については十分説明をしている。玄関に「なんでもメッセージ」箱を設置しているが利用はない。気になることがあれば口頭で言っている。 (外部評価) 意見箱を設置しているが、今のところ意見はない。利用料支払いのため、月1回は必ず家族の来訪があり、その時に話を聞くよう心がけている。また重要事項説明書にホーム及び外部の苦情相談窓口を明記しており、家族にも説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ユニット毎に職員会議を全員参加で行っており運営者もその都度出席して頂き、職員は気兼ねなく意見を述べる事が出来、職員の意見には十分配慮して頂いている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 行事や利用者急変時には十分対応ができるようにして、無理のない勤務で利用者の安心安全に努めている。運営者もその点についても十分理解して頂いている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 単独事業所のため異動はない。2ユニットであるが利用者は自由に行き来し行事は合同で行っているため顔なじみの関係ができています。パートさん達も勤務時間の調整で他のユニットを勤務することもある。 (外部評価) 開設時からの職員が多く、職員の異動も少ないので利用者の不安はあまりない。管理者もユニットの職員は固定するよう配慮している。またユニット合同の行事などで交流を図り、利用者も職員も顔馴染みになっている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修には必ず2名以上参加できる体制で、常勤非常勤を問わず均等に学習する機会を設けている。人材育成のための研修も計画的に取り組んでいる。運営者は非常に協力的で研修参加者は勤務として取り扱っている。 (外部評価) 管理者は、職員に研修についての希望を聞き、積極的に参加を勧めている。運営者は研修を勤務扱いとして、費用も負担している。参加した職員は報告書を作成しミーティングなどで全員に伝えている。また会議などでミニ研修を行うこともある。		研修報告書を提出し職員会でも報告を義務付けている。熱心に研修をしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修時の情報交換や相互研修事業にも参加し、お互いのホームの質の向上に向けて努力している。グループホーム以外にも特養や老健にも利用者を伴って訪問したり、行事にも参加させて頂くなど交流をしている。 (外部評価) グループホームの連絡会議や研修会などで交流を深めている。また、他の施設やグループホームを見学したり、ホームに来てもらうなどしながら、情報交換を行っている。		老健の行事に毎年招待していただいているので、私たちのホームでも何か招待できるようなことをしたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 普段から何でも相談出来る関係を作っている。年に2～3回は親睦を深める機会を設けている。運営者が積極的に懇親会を提案して頂く。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は職員を大切にきめ細かな心配りをされている。職員はやる気があり向上心を持って仕事をしている。研修報告等でもそのことが伺える。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 信頼関係が一番大事だと考えており、話を十分聴き双方が早期に理解しあえるように努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者と同様に考えるが特に家族との信頼関係がより良いケアをしていく上には不可欠であると思っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ショートもデイも対応はできないが、空き室があれば比較的短期(冬の間の数ヶ月間)の入居も要望があれば対応できる。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 数日間のテスト入居も可能である。希望があれば柔軟に対応できる。 (外部評価) ホームに本人や家族に来てもらい、見学してもらったり共に過ごしてもらいながら馴染めるよう配慮している。また、施設や病院から直接入居される利用者についてはホームから訪問している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者さんを人生の先輩として尊敬しながらケアに努めている。利用者さんから教わることも多々ある。 (外部評価) 利用者の豊かな経験を聞いて学ぶことも多く、料理の得意な利用者から野菜の下ごしらえや調理の仕方などを教えてもらったりしている。また、掃除や食事の後片付けなどは職員から声をかけて一緒に行うなどしながら、利用者の日々の生活を支えている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一方通行にならず双方が何でも相談できる関係を築いていることにより、一緒に本人を支えていくことが出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族、親族の面会が多いと言うことはより良い関係ができてきているからだと思う。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が入居前にかかっていた医療機関や薬局、主治医との関係を継続、復活して馴染みの関係を維持している。地域の行事、墓参りなどで近所の人との関係も維持している。面会も自由に来て頂き職員は面会者がゆったりとくつろげるように配慮している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) マイペースを尊重しながらも家族のような雰囲気でお互いが気遣い助け合いながら支え合っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 特養などへの住み替えや在宅復帰についても細かな情報提供を行い、住み替えによるダメージの軽減と利用者、家族との関係をたちきらないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) マイペースを尊重しながらその人らしくを基本に取り組んでいるが、まだまだ十分とは言えないし、この事は入居が続かぎり永遠に続くものと思っている。 (外部評価) 日々の利用者との会話の中で希望や思いを聞いたり、家族の来訪時にも確認している。また、センター方式を採用したり、利用者ごとの担当職員を決めるなどして把握するよう心がけている。	※	センター方式も一部取り入れているが、他にも良いと思うものがあれば検討したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接、担当ケアマネからの情報、家族、本人からの聞き取りや親族、友人知人の面会時の話、本人との日頃の会話などから把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) マイペースを尊重しながら共同生活の中で個々の出来る力を引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族に必ずケアプランについての意向を伺いプランに反映させている。職員はそれぞれの課題について共通認識を持ち意見を出し合い情報の共有を図っている。常勤と非常勤の職員が二人組の担当制をとり責任とよりきめ細かな対応ができています。 <hr/> (外部評価) 本人及び家族から希望や意見を出してもらい、利用者の担当職員が気づいたことや意見を採り入れて、会議などで全員で話し合い、本人に合った具体的な介護計画を作成している。介護計画は家族にも説明している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月ごとのモニタリングとプランの見直し、更新時や入院等により身体状況の変化に応じて適宜現状に即したプランに変更している。 <hr/> (外部評価) 定期的に見直し、評価を行っている。利用者の状況に変化が見られた場合には、その都度話し合いを行い、現状に合った介護計画を作成している。職員を担当制にしてから利用者一人ひとりのことがさらに把握できるようになっており、ケアに活かしている。		担当制にしてから自分のこととして真剣に取り組むようになった。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録についてもまだ別の方法で良いものはないかと模索している。手引き書なども買って参考にしてている。以前よりは良くなったと思っているが…		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 状況に即した対応ができています。利用者の希望に応じた外出支援、家族の要望に応じた他町の医療機関の受診など。医師や訪問看護師との情報交換を密にして薬を減らす支援なども行っている。 (外部評価) かかりつけ医への受診の送迎を管理者が行っている。地域内は無料、外は有料で行っている。また、買い物や墓参りなど、利用者に応じた柔軟な支援を行っている。		基本的に行っていなかった他町の病院受診を本人の身体状況や家族の希望で行うようになり喜んで頂いている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域資源の協力は随時受けている。一般ボランティア、演芸ボランティア、中学生の職場体験、サマー、ウィンターボランティア、消防署、公民館、警察の訪問など。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 医療系の訪問看護を2名利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センター長は友人（ケアマネ仲間）であり、職員とも顔なじみのため相談はしやすい立場にある。まだ協働するような案件は生じていない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 馴染みの医者にかかれるように多種多様に受診援助を行っている。ホームとしても安心しておれる。インフルエンザの予防接種は協力医療機関の医師が出向いて来て頂き実施した。そのことは事前に担当医に相談をした上である。 (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医を受診している。管理者が受診の送迎を行っているため、利用者一人ひとりの把握ができています。また、利用者一人ひとりのかかりつけの病院とかかりつけ医を一覧表にしており、職員も把握ができています。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 家族の希望や必要ではないかと思えるような時には家族と相談し専門医にかかっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 受診先の看護師とは馴染みの関係で好意的に協力してもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合は毎日誰かは訪問し、洗濯物を取りに行きその際、担当の看護師から情報を聞く。管理者は主治医や理学療法士からも情報を聞き都度職員にも情報を流して退院に向けて備えている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 利用者、家族の意向を第一に考え主治医と相談しながら対応している。情報は必ず申し送りで全員が確認できるようにしている。 (外部評価) 利用者が重度化した場合や終末期については、本人及び家族の意向を聞いて、かかりつけ医と相談しながらホームでできる支援は行う予定だが、ホームの指針は定めていない。また、現時点では対象者もいないため、職員全員で方針を共有しているとはいえない。	※	ホームの対応方針について、運営者及び職員で話し合い、指針として利用者及び家族に説明することが求められる。また、重度化や終末期についての職員教育も望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者、家族の意向を大切にし主治医と連携をとりながら、ホームでできること、できないことを見極め、そのことを双方に理解して頂く。	※	終末期ケアや看取りに対する職員の意識改革、勉強会が必要である。看取りの指針も未作成である。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 使い慣れた物品を持ち込んだり、施設からであればベットの向きなども考慮している。家族にも住み替えによるダメージについて話し協力を得ているが、新しいものを用意される方が多い。仏壇なども持ち込まれて居る方も数名ありお茶祈などの支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応、言葉かけに努めている。引継でも個人名は出さないように、記録を見せながら「この方は」と言う表現にしている。居室の入り口にも暖簾をつけ部屋が開いていても中が直接見えないようにしている。 (外部評価) 職員の言葉かけや対応は、共に暮らしているという姿勢がうかがえる自然な雰囲気である。食後の歯磨きもさりげなく誘導しており、利用者も自然に行動している。記録等の個人情報はフロア内に置いてあるが、職員が適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人が自己決定できるように、言葉かけや待つゆとりを持つことを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースを大切に、職員サイドで強制しないようにしている。散歩や入浴などもその日、その日意向を聞き対応している。こんな事がありますが行きませんかと声をかけることもしている。 (外部評価) 買い物や散歩も本人の希望や体調など様子を見ながら、利用者一人ひとりのペースを大切に、その日の自由な過ごし方を支援している。声かけを行い、日々の暮らしの中で役割を担ってもらうこともある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣服の選択、理美容も本人の希望に添っている。自発的な希望がない場合は職員が判断をして対応している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の収穫、下準備、食事、後片付けと個々の出来る力を見極めながら職員と共に楽しみながらしてもらっている。どんな些細なことでも必ずお礼を言ってねぎらっている。 (外部評価) 利用者に希望を聞きながら献立を考え、準備や下ごしらえなど出来ることを手伝ってもらっている。職員も利用者と一緒に会話を楽しみながら食事している。後片付けも職員が声をかけながら役割分担して行っている。また、介助が必要な利用者には横に座り、さりげなくサポートしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒、ビール等は行事時には出すようにしているが、少し飲まれる程度で利用者さんからの要望はない。たばこは誰も吸われていない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 昼間は布パンツ、夜は紙パンツ、尿パットなども厚手、薄手と適宜使い分け、利用者さんが少しでも楽に気持ちよく過ごせるようにしている。ゴミの減量とオムツ代の節約につながっていると思う。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 当日の利用者さんの体調、本人の希望を優先し入浴は一人づつゆっくりと利用されるようにしている。ひとり1人の持てる力を発揮して頂き、職員は不十分なところを支援している。入浴日は隔日であるが柔軟に対応している。2日続いて入浴をしないという日はほとんどない。 (外部評価) 入浴は午後3時からとしているが、順番は利用者の希望に応じて支援している。職員は利用者の入浴チェックを行い、一人ひとり把握している。現在の入居者には入浴を拒否する人はいない。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の明かりの調節、冷暖房の管理、寝具の調節を適宜おこない安眠の確保に努めている。眠剤をできれば飲まなくてもよいように、また減量できるようにも努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家族の一員としての役割、出来る力を活かせるような支援を心がけている。日常のお手伝い、回覧版届、野菜畑の世話、収穫、花の世話、カラオケで懐メロや唱歌をみんなで唄うことも多い。新聞や週刊誌を読む。雑巾を縫って頂く等 (外部評価) 利用者は職員と共に掃除、食事の準備や後片付け、洗濯干しや洗濯たみなど役割を分担している。食事前の「いただきます」は順番に言ってもらっている。またカラオケで歌を唄ったり、テレビを見たり、散歩や買い物などに出かけている。ユニット合同のミニ喫茶も楽しみの1つとなっている。		食事前に強制ではないが当番で「いただきます」と号令をかけて頂いている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者がお小遣いとして預かっているが、自分で持っていたと言われる方は、家族にも了解をとって持って頂いている。電話代を出そうかと聞かれることもある。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は体力に応じた散歩、車椅子での散歩、日向ぼっこ、ホームの買い物の手伝い野菜畑や花壇の世話など個々の体力を見極めながら支援している。 (外部評価) 日常的に職員と食料品の買い物に出かけたり、天気の良い日は散歩に出かけている。畑の収穫時や花壇の世話などでも外に出るようにしている。花見や外食などをホーム行事として行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 町内外の行事にもできるだけ出かける機会をつくり、ボランティアさんも〇〇に行く日はいつ？と声をかけて頂きお手伝いをお願いしている。全国かまぼこ板の絵展覧会も毎年行き高齢者の作品に元気をもらっている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書く支援も以前はできていた方もあったが、今ではほとんどない。お便りを受け取ることも減多にない。電話は自分でかけられる方もある。余り頻繁にかけられると相手方に迷惑がかかるようなこともあるので、適宜要件を聞くこともある。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間の制限もなく、いつでも誰でもゆっくりとくつろいで頂けるように自室にお茶などお持ちし歓迎している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は一切行っていない。また行っていけないことを周知徹底している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室に鍵はない。玄関は夜遅出が退社したら施錠し、翌朝7時前には開けている。内側からのロックだけなので利用者は自分で開けて新聞を取りに出られる方もある。 (外部評価) 日中は玄関及び各ユニットの出入り口にも鍵はかけていない。職員が常に見守りを行い、利用者が外に出て行くのを無理に止めるのではなく、一緒にそのまま散歩することもある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) おおまかな役割分担をしており、一人は利用者の動きをキャッチできるような範囲で気配り目配りをしながら記録など書くようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険物となりそうな物は利用者の目に届きにくい所に保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 身体状況の変化による事故を未然に防ぐように、必要に応じてケアプランに盛り込み、また適宜申し送りで通達している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当の訓練は受けているが、その場であわてずに適切に行えるかは疑問である。		応急処置が誰でもすぐに来るように訓練をすることが必要である。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) ホーム単独での避難訓練を概ね2ヶ月に1回は実施している。夜間を想定して行い初期は2名の夜勤者で行うようにマニュアルを作成し順番にしている。消防立ち会いの訓練も行っている。消防へ直結できる火災通報装置も設置した。組み内に消防詰め所もありすぐに協力が得られる。 (外部評価) 定期的に消防署の協力を得て避難訓練を行い、またホーム独自でも夜間を想定した訓練を行っている。直接消防署に連絡できる装置を設置し、マニュアルや緊急の連絡網を作成して、地域の住民にも協力をお願いしている。		運営者はスプリンクラーの設置を検討されている。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時や身体状況の変化に応じて随時家族に説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや利用者の状態をすばやくキャッチして、随時受診で早期発見、治療に努めている。職員間で情報を共有して対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに処方箋をとじており、新しく追加されたり、中止された場合にはその旨個人記録、申し送りでも通達する。特に注意する薬についても周知徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給、繊維性食品の多用、日々の散歩、体操に取り組む、個人別に排泄記録にもとづく下剤コントロール表をつけてきめ細かな対応をしている。		水分補給はまだ十分ではない。なかなか飲んで頂けない方の支援をどうするかが課題である。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後歯みがきを行っている。歯の無い方も必ず食後のうがいをして頂き、口腔内に食べかすを残さないように配慮している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事摂取状況、水分摂取状況を個人別に記録して1日の様子が一目でわかるようにしている。身体状況に応じて食べやすい食事形態にしたり、自助食器の利用、とろみ剤の利用と個々の利用者に対応している。 (外部評価) 食事や水分摂取量を毎食記録している。献立も栄養バランスを考えて立てており、知人の栄養士に1か月の献立をチェックしてもらったこともある。利用者によって調理方法を変えており、糖尿病の方の主食は量っている。	※	栄養士による献立ではなく家庭の味であるが、友人の管理栄養士に献立のチェックやアドバイスをお願いしている。 専門的な観点から、定期的な栄養士のチェックを継続していくことを期待したい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 普段から手洗い、うがいの励行、消毒薬を使つての清掃、早めの予防に努めている。巷で流行が確認されれば直ちに警戒モード、被疑者ができればさらに強化して感染拡大を防ぐ手だてをしている。職員は自らの健康管理をすることにより、利用者の安全を守ることができると考えている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は毎日購入し鮮度保持に努めている。食器調理器具の衛生にも気をつけている。また野菜はほとんど自家菜園や産直市場でとれた新鮮な物を食し、米は地元産を直接農家から調達している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 建物いっばいに手すりを設置し安全面を考慮、玄関先にベンチを置き日向ぼっこや外気浴をして気分転換を図れる工夫、花を植えたり飾ったりツバメが子育てをしている様子を観察できる。交流館ができたことで更に近隣の人との交流が期待できる。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 行事等の写真の貼付やインテリア、神棚の設置、季節の花を生ける。鈴虫の飼育などを通して生活感や季節感が実感できる工夫をしている。 (外部評価) 玄関は家族や近隣の方が気軽に訪ねて来られるような雰囲気づくりがなされている。居間は明るく、季節を感じる飾り付けをしており、畳のスペースもある。ソファの配置も工夫し、利用者はそれぞれ好みの場所で過ごしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 思い思いの場所で居眠りをする人、おしゃべりに花を咲かす人、新聞を読んだりテレビを見たりとそれぞれがくつろいで過ごされている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居の時に使い慣れた物を持参して頂くようお願いをしている。家族によっては季節感が実感できるように室内装飾に気を配ったり、花を飾ったりされる。また、部屋の飾りを自分好みに替えられる方もある。 (外部評価) 居室内に広い押入れがあるため、全体的にすっきりしている。畳の間を希望した方には対応している。家庭から使い慣れた家具やテレビ、仏壇、お気に入りの物を持ち込んでいる。手すりも設置し、安全に配慮している。壁は写真やカレンダーなど思い思いの飾りつけがされており、その人にあった居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 共用空間は自動換気であるが、適宜窓の開閉で換気をしている。冷暖房も外気との差を少なく設定している。乾燥を防ぐ手だてにぬれタオルを干したり、加湿機も使用している。室内やトイレの消臭には市販の消臭剤やEM液を使ったり、オムツの処理を適切に行うなど気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室、トイレ、浴室、廊下、非常階段、玄関前等に適所に手すりを設置して身体機能の維持に努めている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレなど見やすい表示や目印をつけている。目線にあわせた位置にも表示してわかるようにしている。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花の水やり、咲きがらとり、野菜畑の世話などそれぞれの得意分野で活動してもらっている。またホーム周りが広くきれいに整備されたので十分に活用したい。	※	ホームの外回りがきれいに整備されたので、天気の良い日は外に出て過ごせるようにしたい。廊下伝いで交流館にも行けてテラスで日向ぼっこが出来るようにベンチも置いたので利用することができる。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	散歩やおやつ通院、夜勤時などマンツーマンや比較的少人数での話、利用者同士の会話の中に思いや願いをすることができる。中には意思表示が難しい方もある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	昼食後のひととき、午前午後のおやつの時、夕食後から就寝までの間
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	それぞれマイペースを維持しながら生活されている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	一緒に何かをするとき(日常の作業、散歩、おやつ、歌をうたう、話相手、通院時など)
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	遠出をするときはそれなりに職員の人数を増やして対応しているので全員が参加できる。日頃の散歩も利用者の状態に併せて、段階的に支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	体調の変化にはすばやく対応しているので不安はないと思う。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	落ち着いた状態で有ると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	日頃から信頼関係を構築している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	家族以外には親族、友人、知人、ボランティアなど、かなりの方が尋ねて頂いている。②よりは多い

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	理解者は確実に増えてきている。これは運営推進会議は元より、運営者の日頃の行いや人柄によるところも大きいと思う。職員も地元者がほとんどであることも強みである。
98	職員は、活き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	運営者や地域の方に認められていることが職員の励みになっている。常勤非常勤の区別無くフルタイムで責任を持って仕事をしている。希望通りの休みもとれている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	態度や言葉からほとんどの人が満足してもらっていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	気になることはありませんかと機会あるごとに尋ねているが、良くしてもらっているとの返事が返ってきます。面会も多くまた頂き物も多いことから満足して頂いているものと思われる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

あいの里は国道441号線から100mほど入った住宅地の端に位置し、四方が見渡せる小高い丘の上にあり通称「権現駄馬」と所元の人は呼んでいます。前方には桜の名所「愛宕山」が一望できホームに居ながらにして花見ができます。又眼下には野村町のシンボル「乙亥会館」見えます。車の通行の少ない広い道路が私達の散歩コースです。畑の中の生活道路は四季折々の営みを肌で感じることができます。あいの里は2ユニットですが、普段から絶えず交流をしているので利用者さんも職員もみんな顔なじみ仲よし家族です。天気の良い日やボランティアさんが来て下さった時などは、20数名が散歩しているさまは圧巻です。笑い声や歌声が丘中に響き渡り幸せいっぱい気持ちになります。また、年末には念願のイベントホール「あいの里交流館」が完成し地元の方達を大勢招待し賑やかに落成を祝って頂きました。地元ボランティアさんによる歌や踊り、大正琴の演奏を楽しみました。運営者が地元自治会に組入りし地域密着型を率先して頂くお陰で、理解者が増え入居を希望される方も多く嬉しく思っているところです。新しい交流館が地域の高齢者の心の拠り所となり、地域とホームの架け橋となるように活用していきたいと思っています。認知症介護のプロとして地域に貢献できるようにもなりたいと思っています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 渡邊 カスミ(眞田)

評価完了日 平成 20 年 12 月 22 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の理念をつくっている。 (外部評価) 理念は開設当時からのものであるが、地域を意識したホーム独自の理念となっている。管理者は、現在の理念についてホームのさらなる向上のために職員と話し合いを持ちたいと思っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を共有し日々実践にむけて取り組んでいる。 (外部評価) 管理者及び職員は「私たちは家族です。」と始まる理念を共有し、利用者の日々の暮らしを支えていることが、利用者の穏やかな表情からもうかがえる。理念はホーム内の随所に掲示しており、いつでも確認できるようになっている。		職員会など機会あるごとに理念の理解と実践について話し合っている。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 入居時には利用者、家族に十分説明しているので理解して頂いていると思う。家族会の時やホーム便りにも理念について説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近隣の高齢者やボランティアグループの方の訪問や交流がある。散歩時などでも気軽に声を掛け合っている。		交流館ができたことで更に地域の方との交流ができると期待している。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域行事に参加している。地域の組入りもして運営者自ら共同作業や常会なども出席され地元からも高く評価されている。 (外部評価) ホームは自治会に加入し、地域の一員としての役割を担っている。近隣の方とは散歩中や買い物時に挨拶や会話を交わし、顔馴染みになっている。地域の行事には積極的に参加し、中学生の体験学習やボランティアの受け入れも行っている。昨年12月にはホーム横に交流館が完成し、さらに交流を深めていく予定である。	※	交流館の落成式には地元の方が大勢出席して頂き賑やかに祝って頂いた。 交流館を活用してさらに地域との交流を深めていくことを期待したい。また、ホームの機能を地域に還元していく取り組みも期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) まだなにもこれといったことはしていないので、これから話し合っ取り組みたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価は全員が取り組みそれなりに理解している。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を理解しており、自己評価も全員で取り組み、出された意見を管理者がまとめている。自己評価をすることにより日々のケアを振り返り、サービスの向上につなげている。外部評価は職員全員に報告して話し合い、改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 委員さんの意見で取り組む行事も多くあり、大いに協力して頂いている。 (外部評価) 2か月に1回定期的に開催している。ホームの行事や利用者の状況、職員の研修報告、意見交換などを行っている。会議には地域の方の参加も多いため、地域の情報も得ながらホームの質の向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村の担当者とは何でも相談できる関係である。大きな行事、認定調査などにも度々来られるため利用者さんとも顔なじみである。利用者さん達も喜んで話しかけている。 (外部評価) 市との連携は取れており、わからないことはその都度気軽に相談している。また、ホームの行事に参加してもらうこともある。介護相談員を受け入れ、利用者のお話を聞いてもらっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員にはまだ学習する機会がなくわかっていない。		学習する機会をつくる。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については日頃から十分理解している。言葉の虐待にも十分注意するように指導している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に十分な説明をしている。特に問題もおきていない。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 出来ていると思っている。苦情らしき？意見があれば職員会で話合ったりして改善に向けて取り組んでいる。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時やお便りで報告し、病状等の変化などは随時電話で連絡を行っている。金銭管理も随時報告をしている。 (外部評価) 請求書と一緒に、管理者が利用者の日頃の様子を書いて送っている。利用者の担当を決めたので、次回からは担当職員も一筆書く予定である。利用料はホームに持って来てもらうため、その際にも話している。緊急時や状態に変化があればその都度電話連絡している。金銭管理についても預かり時は預り証を書いて家族にも渡している。	※	担当者からのお便りを検討したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時は勿論、面会時などでも意見を伺っている。苦情処理の方法についても説明している。何かあれば口頭で遠慮無く言ってもらっている。 (外部評価) 意見箱を設置しているが、今のところ意見はない。利用料支払いのため、月1回は必ず家族の来訪があり、その時に話を聞くよう心がけている。また重要事項説明書にホーム及び外部の苦情相談窓口を明記しており、家族にも説明している。		玄関に「なんでもメッセージ」箱を設置しているが投函されたことはない。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回の職員会議で意見を十分述べる事が出来、運営者は職員の意見を十分聴いて頂き運営に反映している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 臨機応変に無理のないように対応している。希望休も十分に受け入れている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 単独事業所のため職員の異動は退職のみである。日頃からユニット間の交流をしており、利用者も職員も顔なじみの関係が十分出来ており問題はない。 (外部評価) 開設時からの職員が多く、職員の異動も少ないので利用者の不安はあまりない。管理者もユニットの職員は固定するよう配慮している。またユニット合同の行事などで交流を図り、利用者も職員も顔馴染みになっている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修には2名以上の参加体制をとり、常勤非常勤の区別無く平等に研修の機会を設けている。人材育成のための研修も計画的に取り組んでいる。運営者も研修にも理解を示され勤務扱いとして参加意欲を高めている。 (外部評価) 管理者は、職員に研修についての希望を聞き、積極的に参加を勧めている。運営者は研修を勤務扱いとして、費用も負担している。参加した職員は報告書を作成しミーティングなどで全員に伝えている。また会議などでミニ研修を行うこともある。		研修報告書の提出、会議での発表を義務づけている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会等での情報交換や相互研修事業にも参加してお互いのホームの質の向上に努めている。グループホーム以外でも地元の特養や老健にも利用者と訪問し交流している。 (外部評価) グループホームの連絡会議や研修会などで交流を深めている。また、他の施設やグループホームを見学したり、ホームに来てもらうなどしながら、情報交換を行っている。	※	毎年老健の納涼祭には大勢が参加しているので、今度はホームに招待できる機会を作りたいと考えている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 普段から何でも話し合える関係を作っている。ストレスを貯めないように個々が趣味等で発散しているし、時々懇親会も催している。運営者自ら企画して職員の労をねぎらって頂くこともある。明るい職場だと思っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は職員を大切にきめ細かな対応をされている。職員はやる気があり、向上心を持って仕事をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 信頼関係が一番大切だと考えており、十分話を聴くようにしている。		居室で時間をかけて話を聴くと様々な話をして頂き本人を理解する上でも役に立つ。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者と同様に考えている。家族との信頼関係がより良いケアをしていく上では不可欠で有ると思っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 何が必要か、何を求めているのかを見極めて対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居を決める際には事前に家族が訪問をされ、部屋や利用者さんの様子、管理者との話など総合して決定されている。空き部屋などがある場合は数日間のテスト入居も可能であることを伝えている。過去にはそのようなケースがあった。 (外部評価) ホームに本人や家族に来てもらい、見学してもらったり共に過ごしてもらいながら馴染めるよう配慮している。また、施設や病院から直接入居される利用者についてはホームから訪問している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は人生の先輩として尊敬しケアに努めている。日々の生活の中で教わることも多い。 (外部評価) 利用者の豊かな経験を聞いて学ぶことも多く、料理の得意な利用者から野菜の下ごしらえや調理の仕方などを教えてもらったりしている。また、掃除や食事の後片付けなどは職員から声をかけて一緒に行うなどしながら、利用者の日々の生活を支えている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 普段から信頼関係を持ち、情報を共有しながら支えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族が離れたことによるダメージを最小限に食い止める工夫、また入居による関係が良くなったと思えるケースもある。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前にかかっていた医療機関や主治医との関係を継続できるように支援して利用者家族の安心につなげている。地域の行事への参加、盆彼岸の墓参りが近所の人との関係維持にもつながっている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 理念を利用者さんにもことあるごとに話して、いつも家族のような関係で労り支え合っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去後も近くを通るときには訪問したり、家族を町で見かけたときには声をかけ様子を伺っている。退居の際はケアマネ、家族に十分な情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) マイペースを尊重しながら、時々本人の意向を確認しているがいつも同じ答えが返って来ることが多い。その人らしくを基本に取り組んでいるがまだまだ十分ではない。 (外部評価) 日々の利用者との会話の中で希望や思いを聞いたり、家族の来訪時にも確認している。また、センター方式を採用したり、利用者ごとの担当職員を決めるなどして把握するよう心がけている。	※	センター方式にも取り組んでいるが、他にも良い物はないか模索している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接、担当ケアマネからの情報、家族、本人からの聞き取りや友人知人の面会時の話の中からも把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) マイペースを尊重しながら共同生活の中で個々の出来る力、できそうな力を引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人家族にはケアプランについて意向を伺いプランに反映させている。職員は課題について意見を述べ情報を共有している。 <hr/> (外部評価) 本人及び家族から希望や意見を出してもらい、利用者の担当職員が気づいたことや意見を採り入れて、会議などで全員で話し合い、本人に合った具体的な介護計画を作成している。介護計画は家族にも説明している。		担当者を決めたことで責任を持って積極的にケア会議に臨んでいる。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月ごとのモニタリング、ケアプランの見直し、体調変化や更新時にも現状に即したプランの変更をしている。 <hr/> (外部評価) 定期的に見直し、評価を行っている。利用者の状況に変化が見られた場合には、その都度話し合いを行い、現状に合った介護計画を作成している。職員を担当制にしてから利用者一人ひとりのことがさらに把握できるようになっており、ケアに活かしている。		担当者を決めて良くなった。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録についても他のホームでこれは良いと思えるような用紙があれば、それを参考に独自に改良をしているがこれがベストとは思っていない。記録を細かに残すことによりプランに活用できる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 柔軟な対応が十分できている。 (外部評価) かかりつけ医への受診の送迎を管理者が行っている。地域内は無料、外は有料で行っている。また、買い物や墓参りなど、利用者に応じた柔軟な支援を行っている。		基本的に行っていなかった他町の病院受診も家族の要望や本人の身体状況により通院介助をはじめ喜んで頂いている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域資源の協力は随時受けている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ホーム内では他のサービスは受けていない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 包括支援センターとの関係もとれている。協働するような案件はまだないが今後発生したときには十分連携していける。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 十分出来ている。定期的な受診、服薬管理、複数科の受診に努めている。 (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医を受診している。管理者が受診の送迎を行っているため、利用者一人ひとりの把握ができています。また、利用者一人ひとりのかかりつけの病院とかかりつけ医を一覧表にしており、職員も把握できています。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて行っている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 受診先の看護師とは何でも相談でき適切な指導なども受けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合は毎日訪問し様子を伺っている。洗濯物を取りにも行く。早期退院に向けて主治医、看護師とも話している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 利用者、家族の意向を第一に主治医と相談しながら対応している。情報は申し送りでも共有している。 (外部評価) 利用者が重度化した場合や終末期については、本人及び家族の意向を聞いて、かかりつけ医と相談しながらホームでできる支援は行う予定だが、ホームの指針は定めていない。また、現時点では対象者もいないため、職員全員で方針を共有しているとはいえない。	※	ホームの対応方針について、運営者及び職員で話し合い、指針として利用者及び家族に説明することが求められる。また、重度化や終末期についての職員教育も望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 終末期のに向けた取り組みはまだ行っていないが、たまに利用者さんに聞いてみると最後は病院でと言う意見が多い。		今後学習して行く必要はある。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 使い慣れた物品を持ち込んだり、施設からの入居であればベットの向きなども配慮している。施設や病院からの入居が多いせいかわみ替えによるダメージは少ない。少人数で家族的なのが良いのでは。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応、言葉かけに気をつけている。引継でも個人名が利用者さんに聞こえないように配慮している。部屋の入り口には暖簾をかけ廊下からの丸見えを防いでいる。 (外部評価) 職員の言葉かけや対応は、共に暮らしているという姿勢がうかがえる自然な雰囲気である。食後の歯磨きもさりげなく誘導しており、利用者も自然に行動している。記録等の個人情報はフロア内に置いてあるが、職員が適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人が自己決定できるような言葉かけや待つゆとりを持って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースを大切にしている。 (外部評価) 買い物や散歩も本人の希望や体調など様子を見ながら、利用者一人ひとりのペースを大切に、その日の自由な過ごし方を支援している。声かけを行い、日々の暮らしの中で役割を担ってもらうこともある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣服の選択、理美容も本人の希望に添って対応している。100歳の男性(全盲)は顔や髪の手だしなみを心がけておられ、クリームなどの購入をしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の収穫、下準備、食事の後片付けと個々の出来る力を見極めながら、職員と共に楽しんでしてもらっている。どんな些細なことでも必ずありがとう、助かりました、またお願いしますとねぎらいの言葉をかけている。 (外部評価) 利用者に希望を聞きながら献立を考え、準備や下ごしらえなど出来ることを手伝ってもらっている。職員も利用者と一緒に会話を楽しみながら食事している。後片付けも職員が声をかけながら役割分担して行っている。また、介助が必要な利用者には横に座り、さりげなくサポートしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者から要望されるときも時々ある(お酒、ビール)たばこは誰も吸われない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録にもとづきトイレ誘導することにより、失敗を少なくしている。昼夜区別してパット、パンツ、オムツと適宜使い分けている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 夏場はシャワー浴、涼しくなればゆっくりと湯船に浸かって頂いている。便失禁にもシャワーで対応し気持ちよく過ごせるようにしている。 (外部評価) 入浴は午後3時からとしているが、順番は利用者の希望に応じて支援している。職員は利用者の入浴チェックを行い、一人ひとり把握している。現在の入居者には入浴を拒否する人はいない。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 室内のあかり、室温、寝具等に気をつけて安眠の確保に努めている。希望で湯たんぽを使われる人もあり支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家族の一員としての役割、できる力を活かせる支援を心がけている。カラオケで懐メロを歌ったり、唱歌を大きな声で唄いストレス解消にも役立っている。 (外部評価) 利用者は職員と共に掃除、食事の準備や後片付け、洗濯干しや洗濯たたみなど役割を分担している。食事前の「いただきます」は順番に言ってもらっている。またカラオケで歌を唄ったり、テレビを見たり、散歩や買い物などに出かけている。ユニット合同のミニ喫茶も楽しみの1つとなっている。		食事時の「頂きます」を順番に言ってもらっている。しっかりした挨拶が飛び出すときもある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は管理者が預かっているが、自分で管理したいと言われる方には持ってもらっている。(1名のみ)		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物への同行、1日には何度でも出たい方にはその都度可能な範囲で付き合っている(一人では帰れないので) (外部評価) 日常的に職員と食料品の買い物に出かけたり、天気の良い日は散歩に出かけている。畑の収穫時や花壇の世話などでも外に出るようにしている。花見や外食などをホーム行事として行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 地域の行事や町外での行事にもできるだけ出かけている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙が届くのを楽しみにされ、自分でお礼の電話をかける方もあるがごく一部である。手紙はかけなくても自分のなまえは書く機会をつくっている。(短冊、インフルエンザの署名など前もって練習をする)		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間の制限もなくいつでも誰でも自由に面会をして頂き、ゆっくり話ができる環境を設定している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の必要がない。職員は十分認識している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室には鍵はない。非常階段と玄関が施錠できるだけである。玄関は夜の8時から翌朝7時まえには開けている。 (外部評価) 日中は玄関及び各ユニットの出入り口にも鍵はかけていない。職員が常に見守りを行い、利用者が外に出て行くのを無理に止めるのではなく、一緒にそのまま散歩することもある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 一人は利用者の動きがキャッチし易い位置で記録など書くようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険物となりそうな物品の保管は職員間の取り決めにより利用者のめが届きにくい場所に保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 身体状況の変化による事故を未然に防ぐように申し送り等で徹底している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当の訓練は受けたが実際に発生したときあわてずに対応できるかは疑問である。		応急処置や初期対応の訓練を定期的に行う必要がある。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) ホーム単独での訓練も夜間を想定して概ね2ヶ月に1回は実施している。利用者も次第に身体機能が衰えてきているので短時間で安全に避難させるのは難しい。ガスコンロからIHに変えたり消防へ直結する通報装置も付けた。スプリンクラーの設置も運営者は検討されている。 (外部評価) 定期的に消防署の協力を得て避難訓練を行い、またホーム独自でも夜間を想定した訓練を行っている。直接消防署に連絡できる装置を設置し、マニュアルや緊急の連絡網を作成して、地域の住民にも協力をお願いしている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時や身体状況の変化に応じて起こりうるリスクについては説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックにより体調の変化を早期に見つけ早めの受診で対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の情報は職員間で共有している。通院介助はすべて管理者が行っており、受診状況、検査結果、薬の変更等はすべて個人記録、申し送り等で確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給、繊維性の多い食事、運動、散歩など気をつけている。下剤の必要な方は排泄チェック表で確認し、必要最小限の服用にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後歯磨きを行っている。自分ではできない方は職員が磨いている。入居時口臭の強かった人も余り感じなくなってきた。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の摂取状況や水分摂取量が人目でわかるように記録している。身体状況により食事形態を変えたりとろみをつけたり、食事時間をずらしたりと臨機応変に対応している。 (外部評価) 食事や水分摂取量を毎食記録している。献立も栄養バランスを考えて立てており、知人の栄養士に1か月の献立をチェックしてもらったこともある。利用者によって調理方法を変えており、糖尿病の方の主食は量っている。	※	専門的な観点から、定期的な栄養士のチェックを継続していくことを期待したい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 普段から手洗い、うがいの励行、消毒薬を使つての清掃、巷で流行を確認すれば警戒モード、感染者が出た場合の対応と切り替えて対応している。職員は自らの健康を守ることが利用者の健康を守ることにつながることを自覚している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は毎日購入し鮮度保持に努めている。野菜なども新鮮な自家菜園で取れたものや産直市を利用している。食器や調理器具の衛生にも気をつけている。（消毒、乾燥）		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先にはベンチを置き日向ぼっこや外気浴をして気分転換を図れるようにしている。畑やプランターには四季おりおりの花を植えて親しみやすい環境である。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 行事等の写真の貼付やインテリア、神棚の設置、季節の花を生ける、鈴虫の飼育など季節感や生活感を実感できる。 (外部評価) 玄関は家族や近隣の方が気軽に訪ねて来られるような雰囲気づくりがなされている。居間は明るく、季節を感じる飾り付けをしており、畳のスペースもある。ソファの配置も工夫し、利用者はそれぞれ好みの場所で過ごしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 思い思いの場所で居眠りやおしゃべりを楽しんだり、テレビを見たりとくつろいで過ごされている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が落ち着いて生活できるように使い慣れたものを持ってきて頂く様に話していても新しいものを用意される。時計や小物などは本人が使っていたものをお願いし持ってきて頂いている。 (外部評価) 居室内に広い押入れがあるため、全体的にすっきりしている。畳の間を希望した方には対応している。家庭から使い慣れた家具やテレビ、仏壇、お気に入りの物を持ち込んでいる。手すりも設置し、安全に配慮している。壁は写真やカレンダーなど思い思いの飾りつけがされており、その人にあった居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 共用空間は自動換気である。トイレ、居室、クローゼット内の消臭にはEM液や市販の消臭剤、脱臭剤で対応しているがそれでも体臭の強い人、尿臭のある人があり対策に苦慮している。トイレ自立の人は風呂でないことを確認できない。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室、トイレ、風呂場、廊下、非常階段、玄関前などの適所に手すりを設置して身体機能の維持に努めている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレなど見えやすい表示や目印を付けて混乱を防ぐ工夫をしている。		4
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベンチを利用した日向ぼっこや休憩、ベランダからの花見や花火見物、野菜畑の世話や収穫などの活動ができています。	※	交流館ができ周りも広く整備されたので外回りのできるようなことも検討したい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	おやつの時や夜勤のとき落ち着いて話す機会があり思いや願いを知り援助できていると考えている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつや散歩のときゆっくりと話を聴くようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自室で過ごしたりリビングで過ごしたり思い思いのペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一緒に歌を歌ったり作業を一緒にしているときなどの表情が嬉しそうである。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	車椅子での介助、両杖でヨチヨチ歩きの方、全盲の方が元気な方のように行かない。但し行事等でのお出かけは全員連れて行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的な受診と日々のバイタルチェックにより、異常の早期発見、治療に努めている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	落ち着いた状態で過ごされている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価)	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に良く話して下さる。日頃から信頼関係はできている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	面会は多い方だと思う。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を通してばかりではないと思うが理解者は運営者が交代してから随分と増えてきたように思う。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員はお互いを理解して和やかに仕事をしている。離職者がいないことでも満足しているものと思える。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ほぼ満足されていると感じている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時に感謝の言葉をかけて頂く。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

あいの里は国道から100Mほど入った住宅地の端にあり、四方が見渡せる小高い丘にあります。前方にはさくらの名所愛宕山があり、眼下には野村町のシンボル乙亥会館が見えます。車の通行の少ない広い道路が私たちの散歩コースです。畑の中の生活道路は四季折々の営みを肌で感じることができます。あいの里は2ユニットでも、絶えず交流をしているので利用者さんも職員もみんなが顔なじみ仲良し家族です。天気の良い日やボランティアさんが来てくださる時など、20数名が散歩しているさまは圧巻です。笑い声や歌声が丘中に響き渡りしあわせいっぱいの気持ちになります。また、年末には念願の交流館が完成し地元の方達を大勢招待し賑やかに落成を祝っていただきました。地元ボランティアさんによる歌や踊り、大正琴の演奏などを楽しみました。運営者が地元自治会に組み入りをして地域密着型を率先していただくお陰で、理解者が増え入居を希望していただく方も多く嬉しく思っているところです。新しい交流館が地域の高齢者の心の拠り所となり地域とホームの架け橋となるように活用していきたいと思っています。認知症介護のプロとしても地域に貢献できるようにもなりたいと思っています。